

日本災害情報学会

第5回研究発表大会プログラム

| | | | | |
|-----------|----------|-----------|---|---------|
| 10月18日(土) | 開 会 | 午前9時00分 | | |
| | 研究発表(1日) | 午前9時15分 | ～ | 午後6時30分 |
| | 懇親会 | 午後7時00分 | ～ | 午後8時30分 |
| 10月19日(日) | 研究発表(2日) | 午前9時00分 | ～ | 午後0時15分 |
| | (理事会) | (午後0時15分) | ～ | 午後1時15分 |
| | 宮城調査団報告 | 午後1時15分 | ～ | 午後1時30分 |
| | 特別講演 | 午後1時30分 | ～ | 午後3時00分 |
| | 総 会 | 午後3時00分 | ～ | 午後3時30分 |
| | シンポジウム | 午後3時30分 | ～ | 午後6時30分 |
| | 閉 会 | 午後6時30分 | | |

会場：北海道大学理学部5号館 懇親会会場：学内レストラン「エルム」 懇親会費：5,000円
 参加費：会員1,000円 非会員3,000円 予稿集代：会員2,000円 非会員3,000円

10月18日(土) 進行 川端信正事務局長

【開 会】 午前9時00分

【研究発表】 午前の部① 午前9時15分～午前10時45分

○印：講演者 講演持ち時間 15分(発表13分、質疑2分)

危機管理 (座長 渡辺 実)

停電リスクの低減と被害予測

○長井健人((株)日本総合研究所) 鈴木敏正(同)

震災等大災害時の緊急医療機能損傷評価と医療機関ネットワーク 救急・災害医療支援モデルとその活用
 ○石田勝彦((財)電力中央研究所)

地震・津波、防災情報システム (座長 渡辺 実)

災害報道の電話転接軽減効果—5.26三陸南地震での検証と提言—

○渡辺 実(株まちづくり計画研究所)

ウェブページによる地震災害情報の公開とその役割 —2003年5月26日宮城県沖を震源とする地震につ

いての事例を通して—

○佐藤 健(東北大学大学院) 久田嘉章(工学院大学大学院) 源栄正人(東北大学大学院)

災害とブロードバンド その可能性と問題点

○中村 功(東洋大学)

南海地震津波に対する地域の準備状況—高知市浦戸・種崎地区の事例—
○吉井博明（東京経済大学）

休憩 15分

【研究発表】 午前の部② 午前11時00分～午後1時15分

○印：講演者 講演持ち時間 15分（発表13分、質疑2分）

地震・津波、防災対策—1

（座長 小川雄二郎）

想定東海地震に対する名古屋市の取り組み

○花原英徳（株建設技術研究所） 松尾一郎（同） 宇田川真之（同）

東海地震大綱を実践するための課題と対策 地震注意情報発令時の企業の対応ガイドラインの必要性

○指田朝久（東京海上リスクコンサルティング株）

津波防災対策における地域間格差 —津波ハザードマップに関する自治体対象調査より—

○金田資子（東北大学大学院） 牛山素行（同） 今村文彦（同）

気象庁におけるナウキャスト地震情報

○加藤孝志（気象庁）

水道施設の地震に対する安心度指数の研究

○小川 雄二郎（富士常葉大学）

地震・津波、防災対策—2

（座長 牛山素行）

2003年に発生した地震に伴って生じた液状化災害—5月26日三陸南地震・7月26日宮城県南部地震—

○陶野郁雄（山形大学） 岡本英士（同） 軽部和志（同）

2003年「三陸南地震」時の三陸住民の対応行動

○牛山素行（東北大学災害制御研究センター） 今村文彦（同）

宮城県沖を震源とした地震経験による住民の地震対策の変化～インターネットによる住民アンケート調

査を通して～

○中島良太（株サーベイリサーチセンター） 大枝哲治（同） 岩間伸之（同） 中村 功（東洋大学）

地震時液状化対策は必要か？

○伯野元彦（攻玉社工科短期大学）

昼休み 45分

【研究発表】 午後の部① 午後2時00分～午後3時45分

○印：講演者 講演持ち時間 15分（発表13分、質疑2分）

火山災害、防災対策

（座長 田中 淳）

北海道駒ヶ岳周辺地域の防災意識 —意識構造と時系列変化—

○田中 淳（東洋大学） 宇井忠英（北海道大学）

富士山ハザードマップに対する地元自治体防災担当者の意識

○小山真人（静岡大学） 坂本珠紀（同）

雲仙における砂防指定地の利活用に関する調査

○高橋和雄（長崎大学） 中村聖三（同） 其田智洋（長崎県）

過去から現在への災害情報、そして未来へ～温故知新、古きを知ってやがて再来する自然災害に備える

○三松三朗（三松正夫記念館） 多田康之（虻田町郷土史家）

有珠山周辺の防災まちづくりー災害遺構が語る次世代へのメッセージ

○田鍋敏也（辻警町役場）

1910年有珠山噴火の時系列情報とその解析結果

○岡田 弘（北海道大学） 三松三朗（三松正夫記念館）

有珠火山防災教育副読本

○宇井忠英（北海道大学） 佐茂厚美（洞爺湖温泉小学校） 宇田川真之（建設技術研究所） 他20名

休憩 15分

【研究発表】 午後の部② 午後4時00分～午後6時30分

○印：講演者 講演持ち時間 15分（発表13分、質疑2分）

地震・津波、災害報道 （座長 中森広道）

平成15（2003）年の東北地方における地震と放送の対応

○中森広道（日本大学）

災害情報共有システム「ラジオ・ライフラインネットワーク」～在京ラジオ災害情報担当者会議による災害時の活動～

○高橋民夫（文化放送） 村木正顕（ニッポン放送） 在京ラジオ災害情報担当者会議

南海地震にそなえるー防災報道への地域局の取り組み

○森島繁美（NHK 高知放送局）

宮城県連続地震における災害報道の事例

○森 雅一郎（東北放送） 橋本俊一（同）

災害時のメディア連携を目指して～2003 鹿児島防災シンポジウムより～

○有馬正敏（MBC南日本放送）

防災対策 （座長 荒木田 勝）

迅速かつ信頼性の高い災害情報共有手段 世界災害共通番号(GLObal unique disaster IDentifier

number(GLIDE))の自動生成

○荒木田勝（アジア防災センター） 村田昌彦（人と防災未来センター）

風水害、災害情報 （座長 荒木田 勝）

自然災害におけるヒヤリ、ハットの有効性について（2）

○申 紅仙（(独行法)防災科学技術研究所） 中根和郎（同）

がけ崩れ災害時の住民避難行動の決定木による検討

○柳原幸希（国土交通省国土技術政策総合研究所） 國友 優（同） 寺田秀樹（同）

水害対策における情報面での新たな試み
○木村達哉（国土交通省）

台風災害データベースシステムの構築
○湯本道明（独法）防災科学技術研究所 松浦知徳（同）仲村千秋（同）岩瀬信行（株）ビーコン

懇親会 午後7時00分～午後8時30分
学内レストラン「エルム」（会場の斜め前）

10月19日（日） 進行 五味陸仁理事

【研究発表】 午前の部① 午前9時00分～午前10時45分
○印：講演者 講演持ち時間 15分（発表13分、質疑2分）

防災対策、災害情報（座長 三浦郁夫）

災害体験共有システムの利用
○中根和郎（独法）防災科学技術研究所 申 紅仙（同） 小見波正隆（アデコキャリアスタッフ（株）石井 和（株）三菱総合研究所）

北海道における防災気象情報の改善 —旭川地方気象台の実践—
○高嶋 白（新千歳航空測候所） 横田崇（札幌管区気象台）

市町村を主体とした防災機関等との連携 —北海道における地域の防災力の向上を目指して—
○大橋雅寿（旭川地方気象台） 横田崇（札幌管区気象台）

地形情報を活用した津波対応地域型防災マップ作成の試み
○安部 祥（東北大学大学院） 今村文彦（東北大学） 牛山素行（同）

気象庁ホームページのアクセス数について 災害情報へのアクセスについての一考察
○三浦郁夫（気象庁）

マルチメディア（ブロードバンド）と防災コンテンツ
○櫻井康博（財）日本気象協会） 田口晶彦（同） 飯島 希（同） 佐々木昭士（同）

携帯電話における防災情報伝達の現状と今後について
○櫻井康博（財）日本気象協会） 赤星 誠（株）NTTドコモ） 大友 徹（同） 城野 司（同）

休憩 15分

【研究発表】 午前の部② 午前11時00分～午後0時15分
○印：講演者 講演持ち時間 15分（発表13分、質疑2分）

防災情報システム（座長 干川剛史）

時系列表現によるわかりやすい土砂災害予警報情報表示
○岡野和行（アジア航測株） 牧 澄枝（同） 湯川典子（同） 天野 篤（同） 菊井稔宏（財）砂防・地すべり技術センター）

防災情報ポータルサイトを活用した市民防災活動支援の試み

○町田 岳 ((株) アニメックス) 榊原 弘 (同) 伊永 勉 (同)

IT を利用した災害情報共有・交換システムの現状と課題

○千川剛史 (大妻女子大学)

風評被害、その他 (座長 千川剛史)

「風評被害」はなぜ生ずるか (災害情報とリスク認知)

○竹田宜人 (東京都立大学) 中村一樹 (同)

現在、災害を考える。

○清家 規 (九州大学大学院)

昼休み 60分

(理事会 12:15-13:15)

【学会宮城県北部地震調査団中間報告】 午後1時15分～午後1時30分

陶野郁雄 日本災害情報学会宮城県沖の地震調査団長 (山形大学理学部教授)

【特別講演】 午後1時30分～午後3時00分

1. 「地震予知計画の (意図せざる結果としての) 欺瞞」
島村英紀 北海道大学大学院理学研究科教授
2. 「土砂災害と情報」
池谷 浩 (財) 砂防・地すべり技術センター専務理事
3. 「東南海、南海地震における情報課題」
河田恵昭 京都大学防災研究所巨大災害研究センター長 教授

【総 会】 午後3時00分～午後3時30分

【パネルディスカッション】 午後3時30分～午後6時30分

| テーマ | 「ハザードマップ」 | |
|---------|-----------|------------------|
| コーディネータ | 山崎 登 | NHK解説委員 |
| パネリスト | 田中 淳 | 東洋大学社会学部教授 |
| | 小山 真人 | 静岡大学教育学部教授 |
| | 片田 敏孝 | 群馬大学工学部助教授 |
| | 山田 孝 | 北海道大学大学院農学研究科助教授 |
| | 中西 清 | 北海道森町防災消防対策室長 |
| | 田鍋 敏也 | 北海道壮瞥町企画調整課長 |

学会創立5周年記念行事

■防災シンポジウム

テーマ：「樽前山の噴火と北海道太平洋岸の巨大地震・津波」

日時：10月17日(金) 午後5時30分～午後8時

場所：苫小牧市 グランドホテルニュー王子 3階グランドホール (0144-31-3111)

基調講演：「今後想定される火山噴火と地震」

岡田 弘 北海道大学大学院理学研究科教授

パネルディスカッション：「防災情報と災害に強い地域づくり」

コーディネータ：伊藤 和明 防災情報機構会長

パネリスト：宇井 忠英 北海道大学大学院理学研究科教授

横田 崇 気象庁札幌管区气象台技術部長

櫻井 忠 苫小牧市長

工藤 一 (株)室蘭民報常務取締役編集局長

中村 興一 元北海道開発局室蘭開発建設部長

たるまえさん ファイアーコンテスト展示

樽前山周辺の市町の小中学校に通う小学生、中学生から募集した火山をテーマとした絵画、研究レポート、模型工作などの作品を展示する。

展示会場：防災シンポジウム会場 3階グランドホールロビー

展示日時：10月17日(金) 午後1時～シンポジウム終了時まで

■有珠現地視察バスツアー・防災研修会

日時：10月20日(月)

午前7時30分 札幌駅北口バス乗り場 出発 ⇒ 午後4時30分 現地

(伊達市) 解散 ⇒ 午後7時 千歳空港 ⇒ 午後8時 札幌着 解散(予定)

案内：宇井忠英教授、岡田 弘教授

視察場所：伊達市 消防・防災センター (仮称) 視察

虻田町 2000年噴火遺構

壮瞥町 エコミュージアムサテライト